

平成 31 年 3 月 6 日

別記関係団体の長 殿

広島労働局長

平成 31 年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について

平素から労働行政の運営に格別の御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、これまで、職場における熱中症予防対策については、平成 21 年 6 月 19 日付け基発第 0619001 号「職場における熱中症の予防について」に基づく対策をはじめとして、毎年重点事項を示して、その予防対策に取り組んできたところであり、平成 29 年より「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を実施し、各防災団体等と連携して熱中症予防対策に取り組んできたところです。

当局における職場での熱中症による休業 4 日以上の死傷者は、別紙 1 及び別紙 2 のとおりで、休業 4 日以上の業務上疾病者の数は 32 人と平成 29 年の 2 倍に増加しています。また、全国の死亡災害の発生状況を見ると、建設業などの屋外作業を中心に発生していましたが、製造業などの屋内作業においても多数発生しており、これらの中には、WBGT 値（暑さ指数）計を事業場で準備していないために作業環境の把握や作業計画の変更ができていない例や、熱中症になった労働者の発見や救急搬送が遅れた例、事業場における健康管理を適切に実施していない例などが見られました。このようなことから、職場における熱中症対策がまだ十分に浸透していなかったと考えられ、熱中症予防対策の徹底を図ることが必要です。

平成 31 年の本キャンペーンにおいては、職場における熱中症予防対策の浸透を図ることを目的として、別添の平成 31 年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱のとおり実施されます。事業場における WBGT 値の把握や緊急時の連絡体制の整備等の重篤な災害を防ぐ対策について、特に重点的に周知・啓発を関係団体等と実施いたします。

つきましては、貴会におかれましても、キャンペーンの趣旨を踏まえ、会員事業場に対し、その周知を図っていただきますとともに、各事業場において確実な取組が行われますよう、特段の御配慮をお願いいたします。

## 職場における熱中症による死傷災害の発生状況

## 1 熱中症による死傷者数の推移（平成 21 年～平成 30 年分）

過去 10 年間の職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の上業務上疾病者の数（以下「死傷者数」という。）をみると、年によって差はあるものの、3 人～19 人の範囲で増減を繰り返していたが、平成 30 年は前年の 2 倍に増加した。

その間の死亡者数は 4 人であり、平成 22 年、平成 27 年及び平成 29 年に発生している。

熱中症による死傷者数の推移（平成 21 年～平成 30 年）（人）

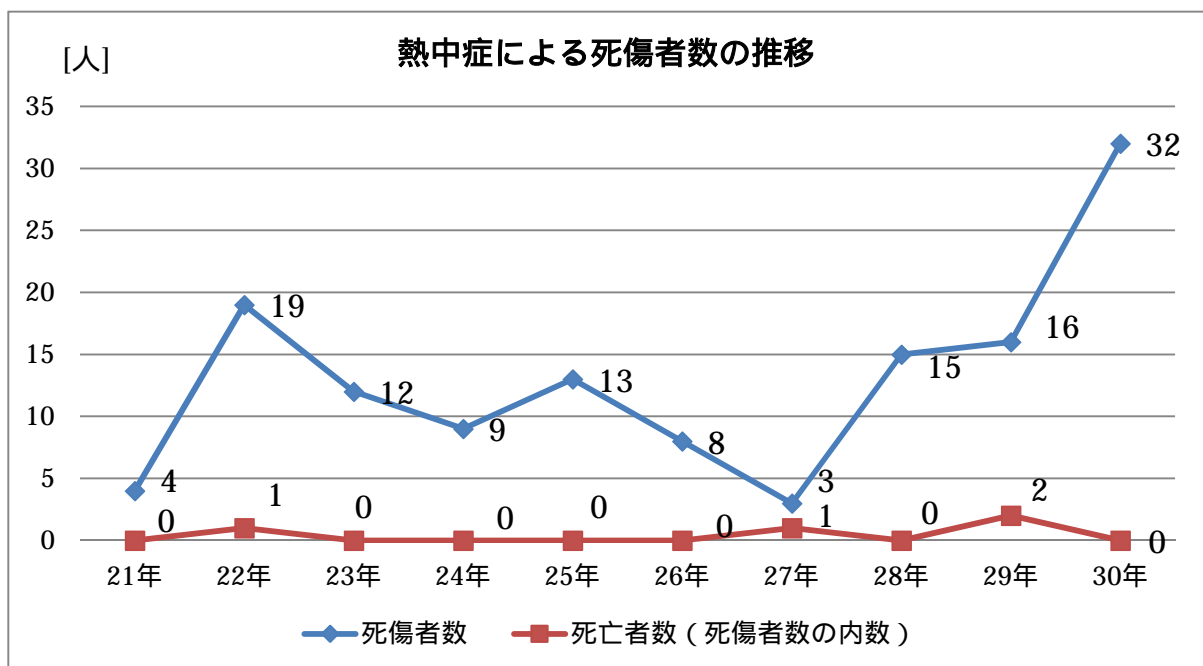
21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年
4	19	12	9	13	8	3	15	16	32
(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)

（ ）内の数値は死亡者数で内数である。

参考) 全国における熱中症による死傷者数の推移（平成 21 年～平成 30 年）（人）

21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年
150	656	422	440	530	423	464	462	544	1,128
(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(29)	(12)	(14)	(29)

（ ）内の数値は死亡者数で内数である。 \* 30 年は速報値



## 2 業種別発生状況（平成21年～平成30年）

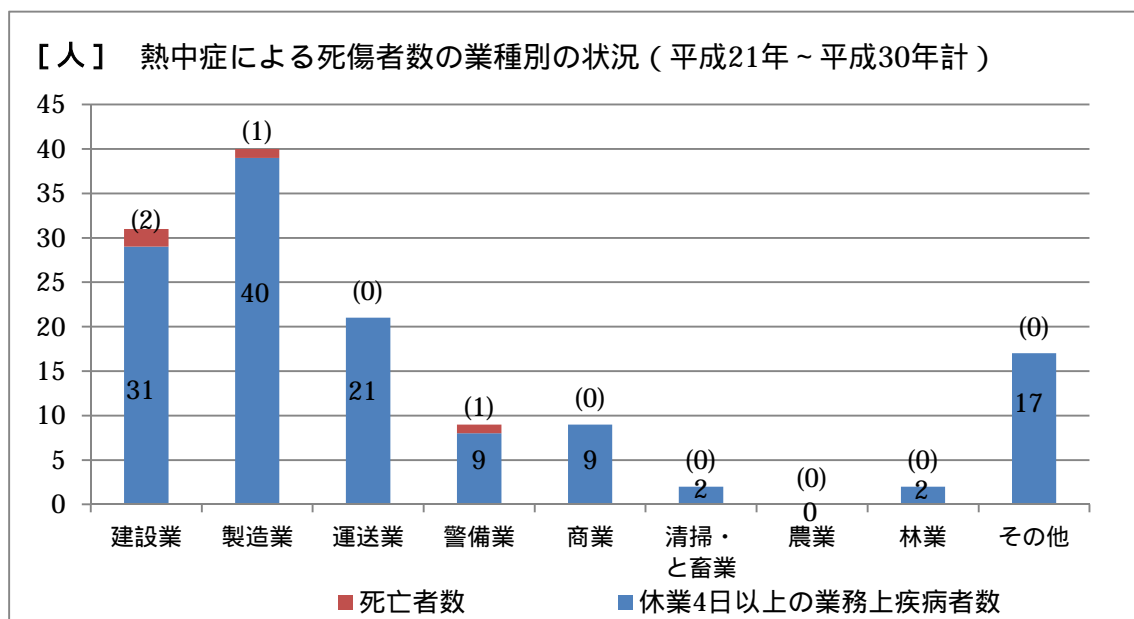
過去10年間の業種別の熱中症の死傷者数をみると、製造業が最も多く、次いで建設業で多く発生している。これらの2業種で全体の5割以上を占めている。平成30年は運送業が最も多く発生した。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成21年～平成30年）

（人）

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・と畜業	農業	林業	その他	計
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	4 (0)	5 (1)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	19 (1)
平成23年	3 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (0)
平成24年	3 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	5 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	13 (0)
平成26年	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)
平成28年	3 (0)	5 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	15 (0)
平成29年	6 (2)	7 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (2)
平成30年	4 (0)	7 (0)	8 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)	32 (0)
計	31 (2)	40 (1)	21 (0)	9 (1)	9 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	17 (0)	131 (4)

（ ）内の数値は死亡者数で内数である。



### 3 月・時間帯別発生状況

#### (1) 月別発生状況(平成21年～平成30年)

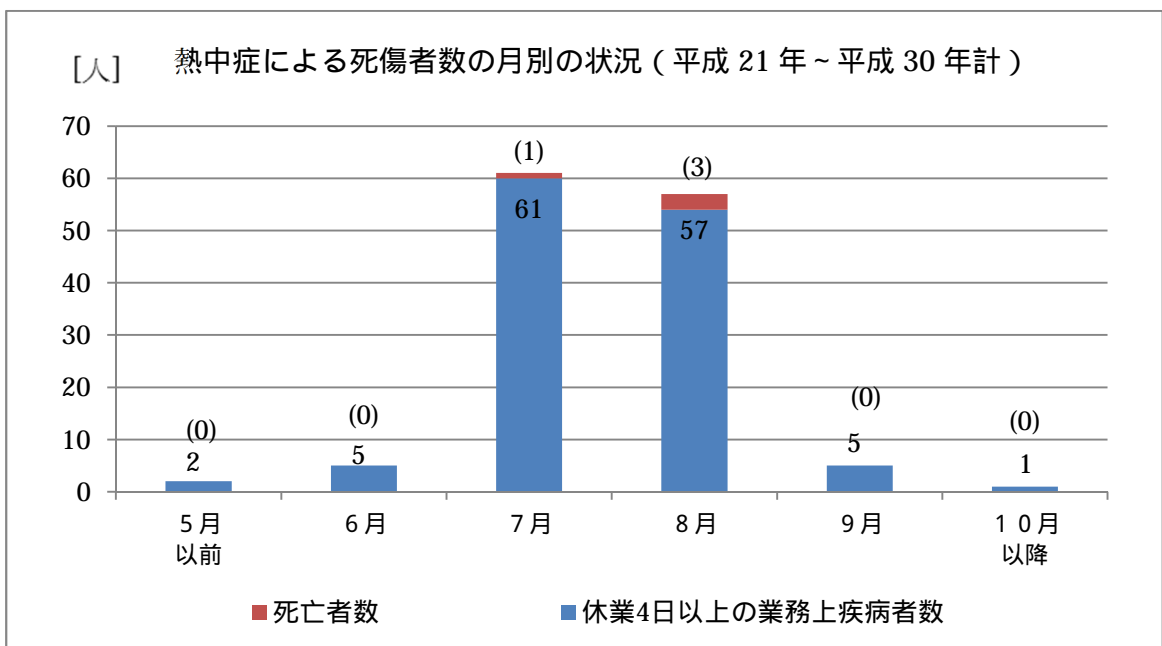
過去10年間の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の9割が7月及び8月に発生している。

熱中症による死傷者数の月別の状況(平成21年～平成30年) (人)

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
平成21年	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	0 (0)	0 (0)	4 (0)	13 (1)	1 (0)	1 (0)	19 (1)
平成23年	0 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (0)
平成25年	1 (0)	0 (0)	6 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
平成28年	0 (0)	0 (0)	10 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	15 (0)
平成29年	0 (0)	0 (0)	7 (1)	8 (1)	1 (0)	0 (0)	16 (2)
平成30年	0 (0)	2 (0)	18 (0)	11 (0)	1 (0)	0 (0)	32 (0)
計	2 (0)	5 (0)	61 (1)	57 (3)	5 (0)	1 (0)	131 (4)

5月以前は1月から5月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

( )内の数値は死亡者数で内数である。



(2) 時間帯別発生状況(平成21年~平成30年)

過去10年間の時間帯別の死傷者数をみると、14時台から急増し、18時台以降まで高止まりの状態が発生している。

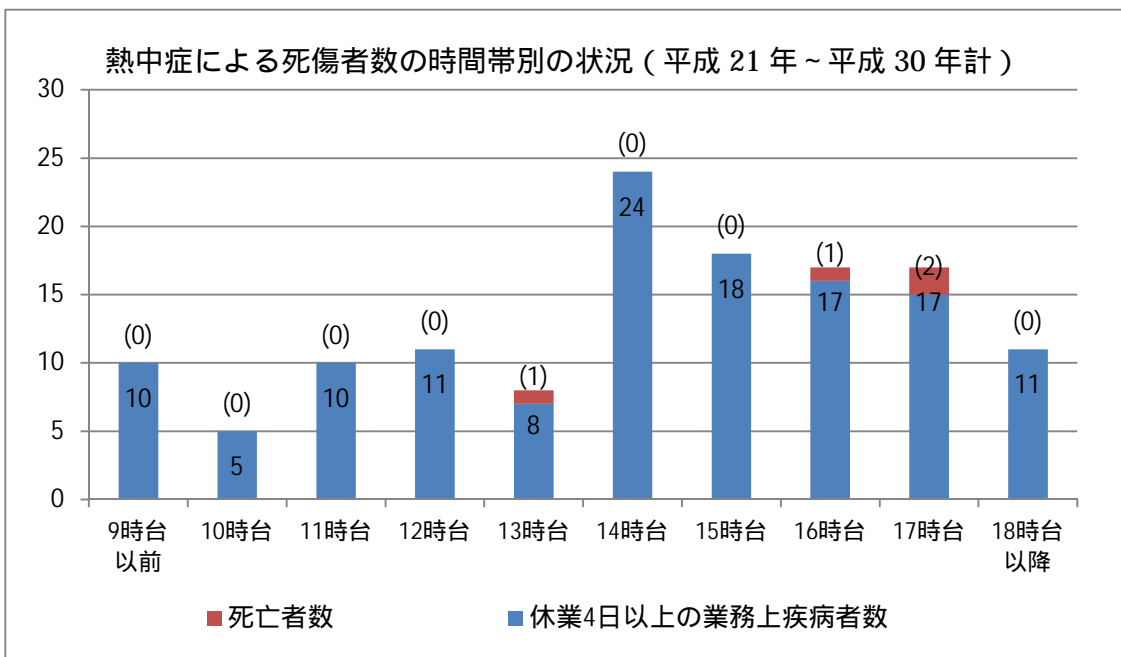
作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、病院へ搬送されるケースも多く見られる。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況(平成21年~平成30年) (人)

	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計
平成21年	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)
平成22年	3 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (0)	3 (0)	19 (1)
平成23年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (0)
平成25年	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (0)
平成27年	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
平成28年	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	15 (0)
平成29年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	4 (2)	2 (0)	16 (2)
平成30年	2 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	4 (0)	7 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	32 (0)
計	10 (0)	5 (0)	10 (0)	11 (0)	8 (1)	24 (0)	18 (0)	17 (1)	17 (2)	11 (0)	131 (4)

9時台以前は0時台から9時台まで、18時台以降は18時台から23時台までを指す。

( )内の数値は死亡者数で内数である。



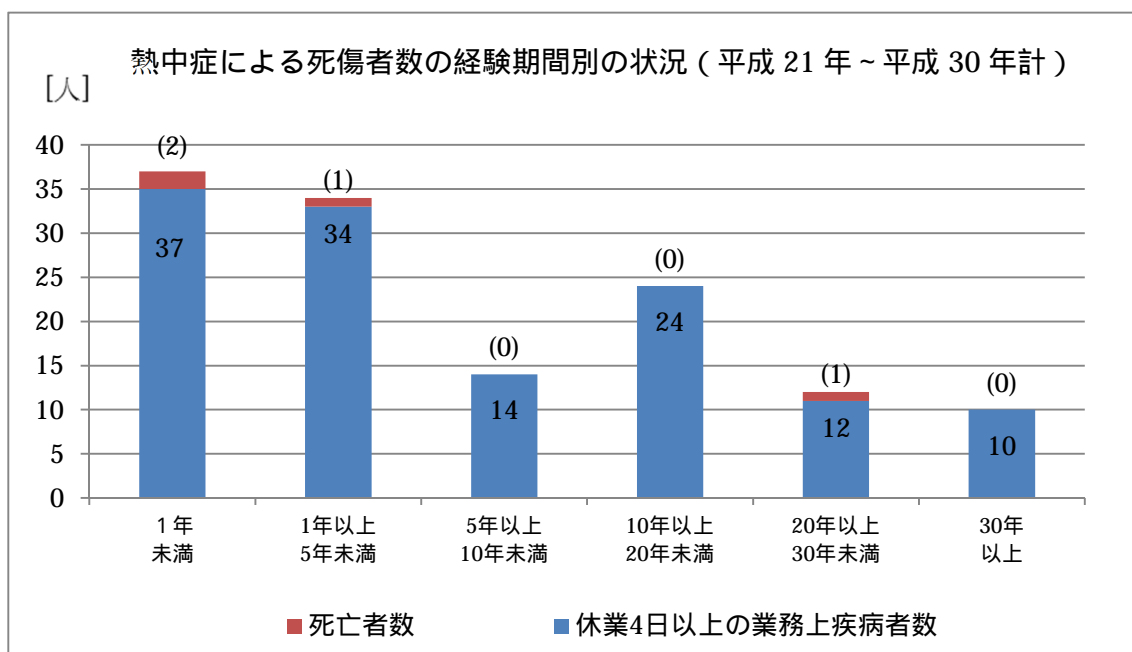
#### 4 経験年数別発生状況（平成21年～平成30年）

過去10年間の経験年数別の死傷者数をみると、1年未満の37件が最多であり、次いで1年以上5年未満の34件と続く。5年未満までの合計71件で全体の5割以上（54.2%）を占める。

熱中症による死傷者数の経験期間別の状況（平成21年～平成30年）（人）

	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	計
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	4 (0)	5 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (0)	19 (1)
平成23年	3 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	12 (0)
平成24年	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	3 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	13 (0)
平成26年	2 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
平成28年	4 (0)	3 (0)	2 (0)	5 (0)	0 (0)	1 (0)	15 (0)
平成29年	5 (1)	5 (1)	0 (0)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	16 (2)
平成30年	12 (0)	10 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	32 (0)
計	37 (2)	34 (1)	14 (0)	24 (0)	12 (1)	10 (0)	131 (4)

（ ）内の数値は死亡者数で内数である。



## 5 年齢別発生状況（平成21年～平成30年）

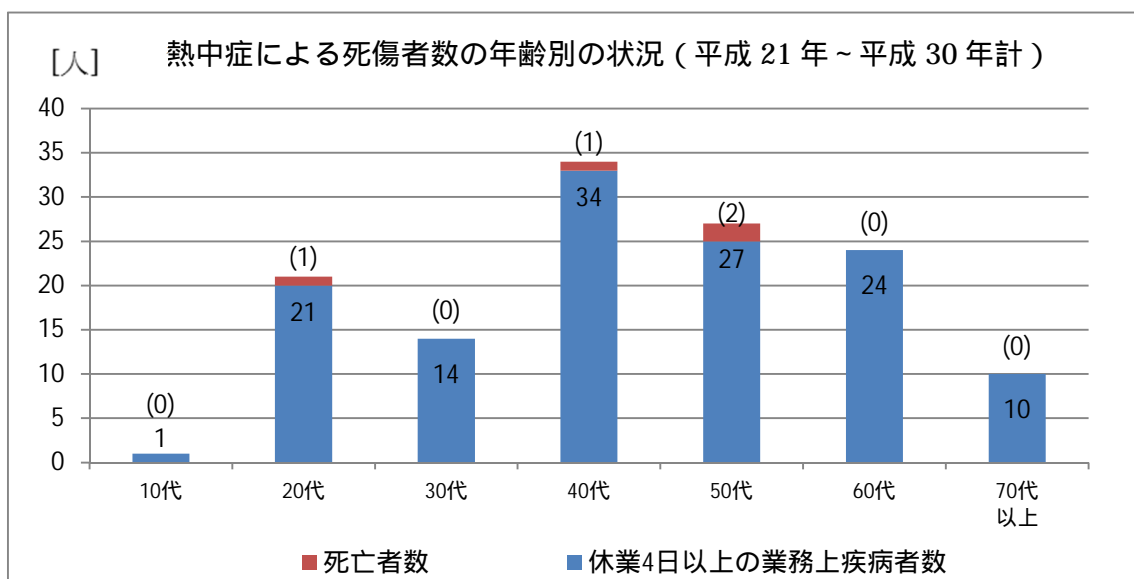
過去10年間の年齢別の死傷者数をみると、10代から70代以上のすべての年代において熱中症が発生している。

労働力人口を考慮すると60代以上の34件(26%)は多いと思われるため、高齢労働者への配慮が必要と考えられる。平成30年は20代と50代が8件と急増した。

熱中症による死傷者数の年齢別の状況（平成21年～平成30年）（人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
平成21年	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)
平成22年	0 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (1)	4 (0)	6 (0)	1 (0)	19 (1)
平成23年	0 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	12 (0)
平成24年	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (0)
平成25年	0 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	13 (0)
平成26年	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	8 (0)
平成27年	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (1)
平成28年	0 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	15 (0)
平成29年	0 (0)	2 (1)	1 (0)	9 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (0)	16 (2)
平成30年	0 (0)	8 (0)	3 (0)	5 (0)	8 (0)	5 (0)	3 (0)	32 (0)
計	1 (0)	21 (1)	14 (0)	34 (1)	27 (2)	24 (0)	10 (0)	131 (4)

( )内の数値は死亡者数で内数である。



**広島労働局管内における熱中症による死亡災害の概要**  
(平成 21 年から平成 30 年)

区分		災害発生状況
発生年月日	平成 22 年 8 月	<p>被災者は間口 8.8m、奥行き 18mの平屋建て作業場の屋内でヤスリ掛け作業を行っていたが、口から泡を吹きはじめる等の症状が現れたため病院に搬送したが、翌日死亡したものの。 窓はすべて開放していたが、無風状態であり通風が不十分。水分摂取・熱中症教育も不十分。気温・湿度は不明。</p>
業種	機械器具製造業	
被災者	性別 男	
	年齢 40 代	
	職種 研磨	
	発生時刻 16 時 30 分	
	経験年数 25 年	
発生年月日	平成 27 年 8 月	<p>被災者は土木工事現場において、車両等の交通誘導業務を行っていたが、体調不良の様子につき日陰で休憩させた。約 10 分後に様子を見に行ったところ、倒れていたため病院に搬送したが、当日の夜死亡したものの。 塩分補給等の対策あり。気温 34 ・湿度 45% 程度。災害発生前日は、別の場所で午前 3 時まで警備業務に従事。睡眠不足による疲労も窺われる。</p>
業種	警備業	
被災者	性別 男	
	年齢 50 代	
	職種 車両等の誘導	
	発生時刻 13 時 50 分	
	経験年数 0 年 (9 か月)	
発生年月日	平成 29 年 7 月	<p>被災者は屋根改修工事現場において、屋根上で金属製スレートカバーを運搬する作業を行っていたが、当該作業が終了し、地上にて点呼後行方不明となったため、他の従業員が搜索したところ、屋根上で意識を失った被災者が発見された。 塩分補給等の対策あり。気温 31 ・WBGT 値 29.3 。空調服を作業中は着用していたが、気温・WBGT は未把握。熱中症教育無し。予防管理者の選任無し。</p>
業種	建設業	
被災者	性別 男	
	年齢 20 代	
	職種 配管工	
	発生時刻 17 時 00 分	
	経験年数 0 年 (3 か月)	
発生年月日	平成 29 年 8 月	<p>被災者は法面防護フェンスの除草作業を終日行い、終業後帰宅しようとして事業場内の駐輪場へ移動、駐輪場で意識不明の状態に倒れているところを発見された。意識不明の状態が続いていたが、5 6 日後に死亡した。 水分補給に問題なし。当日の現場付近の最高気温 32.2 。現場は作業途中から日陰がなく直射日光を受けながらの作業。休憩場所の整備・設備対策が不十分。WBGT は未把握。熱中症教育不十分。</p>
業種	建設業	
被災者	性別 男	
	年齢 50 代	
	職種 土木・造園工	
	発生時刻 17 時 55 分	
	経験年数 4 年	